

タイトルが誤っており直して再送したため、一部の方には二重の送信になりますが、ご了承下さい。

[調査会 NEWS 393(18.8.1)]

ドイツのラジオ局が「しおかぜ」について放送

先々週、ドイツの民放ラジオ局 (Deutschlandfunk) で拉致問題と「しおかぜ」についての番組が放送され大きな反響を呼びました。担当者のご厚意で放送のファイルを戦略情報研究所ホームページの「しおかぜだより」に載せさせていただきました。ドイツ語をお分かりの方は一度聞いてみていただくと幸いです。

<http://senryaku-jouhou.jp/tayori.html>

参考情報

守る会 (北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会) では今週末、お二人の脱北者を招き東京と大阪で下記の集会を行います。ご関心のある方はぜひご来場下さい。

(講演者)

鄭成山 (強制収容所をテーマにしたミュージカル、「耀徳《ヨドク》ストーリー」原作者)
金英順 (強制収容所体験者)

東京集会

日 時 : 8月5日 (土)

午後1時開場 1時半開会

場 所 : 食糧会館 中ホール

東京都千代田区麹町3 - 3 - 6 (地下鉄有楽町線 麹町駅1番出口下車徒歩3分)

大阪集会

日 時 : 8月6日 (日)

午後1時開場 1時半開会

場 所 : 大阪府社会福社会館 大会議室

大阪市中央区谷町7 - 4 - 15 (地下鉄谷町線 谷町6丁目駅 番出口下車約5分)

参加費 いずれも1,000円

[調査会 NEWS 394(18.8.2)]

北朝鮮人権問題関係 7 団体の要請について

北朝鮮人権法の制定によって、12 月 10 日から 16 日の 1 週間、北朝鮮による人権侵害問題の啓発週間が設けられました。これに向けて関係 7 団体（北朝鮮難民救援基金・北朝鮮による拉致と人権問題にとりくむ法律家の会・北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会・北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会・北朝鮮による拉致被害者家族連絡会・救え！北朝鮮の民衆 緊急行動ネットワーク及び調査会）では連携をとりながらこの週間を効果あらしめるために連絡をとりあっています。

もちろん、現在の北朝鮮の状況を考えると 12 月半ばにどうなっているかは全く分からないのですが、各団体が連携を取り合うことだけでも大きな意味がありますので、週間に向けて対応を進めていきます。なお、去る 7 月 25 日に行われた会合で事務局は調査会常務理事の杉野が担当することになりました。

その第一歩ですが、明日 8 月 3 日 15:00 に 7 団体の代表者が内閣府の拉致問題連絡調整室を訪れ、各団体の計画等について説明し、協力の要請を行います。当日は法務省・外務省の担当者も同席の予定です。北朝鮮人権法は議員立法であり、主務官庁についてはまだ不明確な点もありますので、そのあたりも詰めることができればと思っています。

（報道関係各位）当日は頭撮りは可能です。やりとりの内容についてはご希望があれば終了後ぶら下がりでご説明します。なお、当日は調査会事務所で 13：00 から打ち合わせを行い、その後一緒に内閣府に向かう予定です。

（参考・北朝鮮人権法）

第四条 国民の間に広く拉致問題その他北朝鮮当局による人権侵害問題についての関心と認識を深めるため、北朝鮮人権侵害問題啓発週間を設ける。

- 2 北朝鮮人権侵害問題啓発週間は、十二月十日から同月十六日までとする。
- 3 国及び地方公共団体は、北朝鮮人権侵害問題啓発週間の趣旨にふさわしい事業が実施されるよう努めるものとする。

[調査会 NEWS 395(18.8.3)]

報道関係各位 臨時記者会見のお知らせ

先日定例の記者会見をしたばかりで、報道関係各位には誠にお手数をおかけしますが、明日臨時の記者会見を行います。ご対応方よろしく申し上げます。

日時 8月4日(金) 15:00 ~

場所 調査会事務所(3F)

内容 特定失踪者に関する目撃情報について(資料は会見の時点で配付します)

[調査会 NEWS 396(18.8.4)]

北朝鮮からの脱北者の目撃証言について

本日の記者会見で発表した内容は以下の通りです。

< 本件に関する経過 >

8月1日(火)、日本の報道関係者より調査会に報告があった。その内容は下記のものだった。

「日高信夫さんによく似た人物を、ピョンヤンで目撃したという脱北者と韓国で面会した。脱北者によれば、『1994年に、ピョンヤンの病院で会った。その人物は朝鮮語が下手だったので、朝鮮人ではないと思った。その時に、その人物は印刷に関する朝鮮語の書物と日本語の書物(内容は不明)を読んでいた。何回も彼と会ったが、いつも何かの本を読んでいた。ピョンヤンにある印刷工場で働いているとのことだった。その工場は、ピョンヤンにある普通の印刷工場である。背が低く、眉毛が濃い人物だった。隙歯だった。(日高信夫さんの写真を見て)この人によく似ている。その人物の手元を見たわけではないので、指の欠損については判らない』ということだった」

調査会は、鹿児島在住のご家族と連絡をとり、ご家族が当該報道関係者と連携をとることと、本件を報道することについての承諾を得た。

< 当該の目撃証言者について >

* 証言者の安全のため、詳細については報告できないことを了承願います。

現在、40歳前半

北朝鮮での職業は、党の軍事教官

2003年脱北

< ご家族の状況について >

現在、ご家族は鹿児島に在住している。ご家族によれば「遠方であり、しかも急な情報だったので、記者会見に同席することは困難であり、申し訳ないが欠席させていただく」とのことだった。さらに、「健康上の理由から、個別のマスコミによる取材については、調査会を通じてお願いしたい」ということなので、調査会としてもご家族への個別の取材は当分の間ご遠慮願いたい。尚、鹿児島でのマスコミ対応は下記まで。

鹿児島でのご家族の窓口:木村宏次郎・救う会鹿児島副会長 090-5473-4115

< 調査会としての情報の評価と今後の対応 >

この情報による人物と日高さんの特徴を比較すると次のような類似点がある。

- ・ 当該人物が印刷関係の本を読んでいたことによって、当該の人物も印刷関係者と思われること。

- ・日高さんの同僚の証言によれば「本人はいつも静かに本を読んでいた」という点と一致すること。
- ・身長が低いこと、眉毛が濃い、隙歯という身体的特徴の類似性があること。

以上の点から、この情報は重要であると認識する。しかし、日高さんを 1000 番台リストに載せることについては、しばらく様子を見たい。調査会としては、当該の脱北者との直接の面会や国内の調査によって、日高さん本人であると確証にたる関連した有力な情報が得られた場合に、1000 番台としたい。

尚、日高信夫さんについては、他の印刷工の失踪の時期、場所などと類似した傾向をもっていることから、注目していた失踪案件である。もし、この人物が日高さん本人であるとすれば、他の印刷工の失踪案件についても、同様に拉致事件の被害者である可能性がより高まるものと認識している。

<ご家族からのメッセージ>

今回、このような情報をいただいて、もしその人が本人だったら良いと思う。

もし、本人だったとしたら、家族としても真剣に対応をしていきたい。

これまで日本政府の対応が後手後手で回っていたことについて、強い憤りの念を持っている。その気持ちは家族という当事者でしか判らないと思う。

北朝鮮に対しては、人道的な面もあるとは思いますが、失踪した家族としてはそれ以上に苦しい思いがあった。

その人物が本人かどうかは五分五分だと思うが、もし 100%本人で間違いのないとなれば、日本政府は責任をもって対処してもらいたい。

日高万亀男（ひだかまきお） 実弟

<失踪の経過>

失踪年月日 1967 年（昭和 42 年）9 月頃
失踪当時の年齢 22 歳
失踪当時の身分 印刷工 東京都内の印刷会社を退職後か、在籍中に失踪
失踪当時の住所 東京都新宿区水道町 会社の独身寮
出身地 鹿児島県
失踪の状況

ご家族の記憶によれば「新しい仕事が大阪で見つかった」ということで、そのため、

会社の同僚が上野駅まで見送ったのが最後の目撃証言という。

ただし、在籍していた会社の別の同僚の記憶によれば「本人は会社を辞めて田舎に帰るといったような状況ではなく、いつのまにかいなくなった」とのことである。

本人の特徴 身長 155センチ 体重 50キロ
右手の人差し指と中指が事故で欠損
隙歯
真面目で、本を一人で読んでいるのが好きだった（会社同僚の証言）

< 関連資料 >

印刷関係者の失踪について

| | 失踪年 | 失踪場所 | 職業 |
|------|-------|------|--------------------------|
| 中村健一 | 1958年 | 長崎 | 青写真技術者 |
| 中塚節子 | 1963年 | 東京 | 印刷会社勤務、カップル(男性も同じ会社)での失踪 |
| 小林栄 | 1966年 | 東京 | オフセット技術者 |
| 日高信夫 | 1967年 | 東京 | 印刷工 |
| N | 1967年 | 兵庫 | 印刷会社勤務 営業職 |
| 早坂勝男 | 1968年 | 東京 | オフセット技術者 |
| 横田道人 | 1970年 | 群馬 | 脱硫技術研究者 |
| T | 1973年 | 東京 | 印刷工 |
| 江藤健一 | 1973年 | 千葉 | 写真印刷技術者 |

昨日の要請文書と調査会の計画

すでに救う会のニュースでも流れておりますが、昨日7団体（守る会・難民救援基金・RENK・救う会・家族会・法律家の会・調査会）の代表（守る会・難民救援危機員・救う会・家族会・調査会から合計7人参加）が内閣府を訪れました。代表して山田文明・守る会代表が河内隆拉致問題連絡調整室長に下記の要請文を手渡しました。この席には法務省・外務省の担当課長らも同席しました。なお、官房長官宛要請文書には各団体からの企画案を添付しましたが、調査会の企画案（まだ確定ではありません）もその下につけてあります。

(要請文書)

内閣官房長官 安倍晋三殿

平成 18 年 8 月 3 日

北朝鮮人権侵害問題啓発週間に関する要請

北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会
北朝鮮難民救援基金
救え!北朝鮮の民衆 / 緊急行動ネットワーク
北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会
北朝鮮による拉致被害者家族連絡会
北朝鮮による拉致と人権問題にとりくむ法律家の会
特定失踪者問題調査会

われわれ 7 団体は、北朝鮮によって引き起こされている人権問題に取り組む民間団体です。先般、拉致問題その他北朝鮮当局による人権侵害問題への対処に関する法律が制定されたことに伴い、北朝鮮人権侵害問題啓発週間（北朝鮮人権週間）が開催されることが法文に盛り込まれました。

われわれ 7 団体としても、この啓発週間に向けて、別紙のように、北朝鮮によってもたらされている人権侵害問題を広く国民各層に知っていただき、この問題の解決に向けて国民世論の喚起を促すことを趣旨とした各種のイベントを企画しております。

つきましては、政府におかれましては、政府独自の企画を実施されるとともに、われわれ 7 団体の企画に対しましても、ご支援・ご協力をいただきますよう要請いたします。

要請項目

- ・速やかに同法律の所管官庁を明確にいただき、われわれ 7 団体との連絡・調整をしていただくようお願い致します。つきましては、北朝鮮による人権侵害問題の複雑性ならびに解決の困難性を鑑み、関係する全省庁が協力して取り組めるような方向性で検討を願います。
- ・所管官庁が明確化された後、速やかに各種の予算措置を講じることのできるように検討を願います。
- ・別紙の各団体の個別の企画に対して、全面的な支援・協力を願います。
- ・7 団体以外にも、北朝鮮による人権侵害問題に取り組む団体は数多く存在します。こうした団体の企画に対しても、各団体の実績や実情を勘案の上、同様に支援・協力を願います。
- ・各自治体に対して、政府の責任で法律の趣旨に沿って、積極的に対応するよう要請してください。

以上

(調査会の企画案)

[調査会 NEWS 397(18.8.8)]

報道関係各位 鹿児島での記者会見について

4日に記者会見を行った日高信夫さんの件につき、出身地である鹿児島で下記の通り記者会見を行います。各位にはご多忙中恐縮ですが対応賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

日 時：8月9日(水) 午後4時～

場 所：鹿児島県庁記者クラブ

内 容：北朝鮮脱北者による特定失踪者・日高信夫さん(鹿児島県出身)目撃情報について

出席者：特定失踪者問題調査会 杉野常務理事

救う会鹿児島 假屋事務局長 他

日高さんのご家族(弟)は、健康上の理由から会見には出席されません。

[調査会 NEWS 398(18.8.8)]

非公開の特定失踪者 1 名国内で身元確認

非公開の特定失踪者リストにあった男性（平成 8 年都内で失踪）お 1 人の身元が今月、大阪で確認されました。本件はご自分の意志による失踪でした。既にご家族が直接会っておられます。関係各位のご協力に感謝申し上げます。

これにより、国内での消息が確認された特定失踪者は 12 名（うち 1 名死亡）、公開者とあわせて 19 名（うち 2 名死亡）になりました。

もちろん調査会は拉致問題解決のための調査を行う機関ですが、単に「失踪」という事実だけでもご家族に与える衝撃は計り知れないものがあります。一人でも多くの失踪者が拉致でなかったと分かり、ご無事でご家族との再会を果たされることを期待しています。

[調査会 NEWS 399(18.8.14)]

モンゴルでの北朝鮮と人権に関する国際議員連盟（IPCNR）定期総会参加報告
専務理事 真鍋貞樹

8月7日、モンゴルの首都ウランバートルの国会議事堂会議室にて、北朝鮮と人権に関する国際議員連盟（IPCNR）の第3回定期総会が開催された。参加者は、日本、韓国、モンゴル、英国、アンゴラ、ブルンジの国会議員と、日本、韓国、モンゴルのNPO代表者の約40名だった。

日本のNPOでは、家族会の市川龍子、救う会神奈川の川添友幸、特定失踪者問題調査会の真鍋貞樹、北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会のソン・ユンボク、北朝鮮難民救援基金の後藤正寛らだった。韓国では、ドリハナ・ミッションのチャン・キボン、脱北難民保護運動のノ・インファンが出席し、それぞれ報告を行なった。

会議では、拉致問題と脱北者を中心とした北朝鮮に関わる人権問題が広く討議された。

家族会の市川龍子は「拉致問題は北朝鮮の人権問題の一つとして解決のために各国の協力を期待している」、救う会の川添からは「モンゴルに行こうとして拉致された福留貴美子さんの問題がある」、調査会の真鍋からは、「北朝鮮向けにラジオ放送を行っている。モンゴルでの脱北者の保護施設の建設は、拉致問題の解決にも重要」という趣旨の報告を行なった。

各国の国会議員の主な発言は次のようなものだった。

モンゴルを代表してグンダライ議員からは「モンゴルの基本的な外交政策はバランスである。したがって、中国とロシア、そして韓国と北朝鮮との関係もバランスを持ったものである。われわれは、全ての国々と良好な関係を持っている。しかしながら、経済的には北朝鮮は過去のものであり、未来は韓国である。この意味で、北朝鮮からの脱北者については、モンゴルの農業開発や産業のために貢献してくれる存在として捉えていきたい」という発言があった。

日本の国会議員からは、中川正春議員が代表して「モンゴルは民主化し、経済・産業が著しく発展している。北朝鮮はモンゴルの民主化を見習うべきである。北朝鮮からの脱北者保護のプロジェクトを具体的に検討を進めたい」という発言があった。

韓国のソン・ユンスン議員からは「金正日を国際司法裁判所に訴えるべきだ」という提言があった。

英国のジョン・グローガン議員からは「中国に対して、オリンピック開催に合わせて、人権問題の解決を求めていくべきだ」という提案があった。

モンゴルのNPOの代表者からは、「モンゴルは平和的な国であり、日本と北朝鮮、韓国と北朝鮮という対立関係が平和的に解消されることを期待している」との発言があった。

会議では、脱北者による北朝鮮の脱北者の現状についての報告、映画「ソウル・トレイン」の上映、そしてミュージカル「ヨドク・ストーリー」のプロモーションビデオの上映などが行なわれた。

会議の最後には、拉致問題の解決、中国における脱北者の保護、国際社会による難民保護などを求めた決議案が上程され、全会一致で採択された。

尚、翌8月8日には、日本からの国会議員と、家族会の市川、調査会の真鍋が、モンゴル外務省のフレルバートル・アジア局長と面会し、懇談を行なった。局長からは、モンゴルの基本的外交政策が説明された後、「拉致問題については北朝鮮側とも意見交換し、日本の情報を伝えていきたい」との姿勢が示された。また、北朝鮮の国内については「表向きとは異なり、内部では相当不満が蓄積しつつある」という分析が示された。

その後、市川、真鍋は警察庁や法務省などを調査のために訪問し、脱北者はモンゴルに現在の時点で237人いることなどを調査した。さらに、マンホール・チルドレン（ストリート・チルドレン）に脱北者の関係者がいないことを調査。そして、ウランバートル郊外にあるマンホール・チルドレンの保護施設の見学を行い、全日程を終了した。

（文中敬称略）

[調査会 NEWS 400(18.8.16)

明日秋田美輪さんの事件について兵庫県議会で質問

明日 17 日、10 時 30 分から兵庫県議会警察常任委員会で秋田美輪さん（昭和 60 年 12 月 4 日失踪）の事件について質問がおこなわれます。質問者は加藤修議員（民主）。徳島からお父さんの秋田正一郎さんも傍聴に駆けつけられます。

秋田美輪さんは調査会の 1000 番台リストの一人で、この時期は若い女性の失踪が集中しています。同じ 1000 番台リストにある山本美保さん（昭和 59 年 6 月 4 日、山梨で失踪）とは遺留品の残し方なども酷似しています。

ちなみにゼロ番台リストで同時期に失踪した女性には公開分だけでも次の方々がおられます。

井尻恵子さん（昭和 59 年 3 月 16 日、京都で失踪）

今津淳子さん（昭和 60 年 4 月 30 日、埼玉で失踪）

林かな子さん（昭和 60 年 11 月 22 日、東京で失踪）

尾上民公乃さん（昭和 62 年 6 月 6 日、大阪で失踪）

[調査会 NEWS 401(18.8.21)

定例記者会見について

次回の定例記者会見は日程の都合で9月5日の開催となります。関係各位にはお忙しいところ恐縮ですが、よろしくお願ひします。

日時 9月5日(火) 14:00～

場所 調査会事務所 3F

内容 ゼロ番台リスト発表

その他

参考情報 戦略情報研究所・一橋総合研究所(外交防衛部会)共同主催シンポジウム
戦略情報研究所ではこのたび一橋総合研究所との共同主催で『東アジア危機と日本の防衛』と題するシンポジウムを開催することとなりました。多数のご参加をお待ちしております。

(開催の趣旨)

北朝鮮によるミサイル発射、軍事拡張をつづける中国と、東アジアにおける軍事的な緊張が、高まりつつあります。米国のグローバル軍事戦略に呼応する日本の防衛政策、非対称な日米安保、そして、国民の権利と安全を守るべき憲法と、国民は、日本の防衛を、真剣に考える時期にきています。

しかし、国民は、主権者でありながら、国および国民の安全保障に関して、政治家そして官僚に任せ過ぎています。自らの命、財産そして誇りを守るため、国民自らが考え、安全保障戦略を練るべきと考えます。

安全保障そして憲法の専門家と参加者皆様の、「いかに日本を守るか」の議論が、日本を守る民の輪を広げるきっかけとなれば、望外の喜びです。

日時：9月11日(18:00-21:00)

会場：如水会館14階 「東西の間」

東京都千代田区一ツ橋2-1-1 Tel 03(3261)1101(代)

(地下鉄東西線竹橋駅下車 1B出口 徒歩4分、半蔵門線・三田線・新宿線
神保町下車 A8出口 徒歩3分) <http://www.kaikan.co.jp/josui/info2.html>

プログラム

18:00 開場

18:30-20:00 パネリストによるプレゼンテーション

20:00-20:15 休憩

20:15-21:00 質疑応答

パネリスト

佐藤守氏（軍事評論家・元航空自衛隊空将）＜台湾海峡危機の可能性＞
近藤重克氏（防衛庁防衛研究所・統括研究員）＜東アジア安定化のための日米連携＞
西修氏（駒沢大学・教授）＜日本の防衛政策と憲法理念の矛盾と、その解決案＞
荒木和博（戦略情報研究所代表・拓殖大学教授）＜朝鮮半島情勢＞

注記：都合により、パネリストの変更及び提言内容の若干の変更がありますので、
その際は、ご容赦ください。

モデレーター：鈴木壮治・一橋総合研究所COO（統括責任者）

会費：2000 円（今回は戦略情報研究所会員にお送りしている講演会参加券は利用できませんのでご了承ください。）

参加方法

info@h-ri.org（一橋総研事務局 林さん）までお申し込み後、当日は直接会場までお越しください。

どなたでもご参加いただけます。お問い合わせもこのメールアドレスにてお願いします。

[調査会 NEWS 402(18.8.22)]

古川了子さんの拉致認定を求める訴訟
次回の法廷は次の日程になります。

9月1日(金) 11:00 ~ 於 東京地裁

法廷終了後 11:30 頃から記者会見を兼ねた報告会を開催します。

(場所は地裁隣の弁護士会館 5F 507 号室)

各位にはご多忙中恐縮ですが、ご支援方何卒よろしくお願い申し上げます。